

それでは前号タイの政治から次にタイの国の経済情勢へ続きます。
(ご存知の方は上級編へ)

今回は一番重要な経済成長率についてです。

- 1 : タイの経済はアジア通貨危機の直後である、1998年には10.5%マイナスと言う大幅な落ち込みとなったものの、99年にはすぐにV字回復を見せ順調に回復していった。
2001年の米国で起きた同時多発テロにより輸出市場の冷え込みで経済成長率が2.1%プラスと言う伸び悩みも経験したのだが、1999~2003年度の平均経済成長率は4.7%と堅調な成長を達成。
2004年度は南部のイスラム圏の治安悪化問題、鶏インフルエンザと言ったマイナス要因があったにも関わらず、6.1%の成長率となった。
- 2 : タイの産業構造はむかしは第1次産業である農業が中心であったが
(就業者の40%~が農業従事者) 輸出に占める金額の割合では10%以下、
製造業では就業者の割合がまだ17%強であるが輸出の85%を占めるようになってきている。
- 3 : 主な輸出輸入相手先は<2004年度>
輸出で 米国15.9% 日本13.9% 中国7.3%
輸入では 日本23.6% 中国8.6% 米国7.6%
となっているが近年中国との貿易量の増加幅が急拡大しており、今後注目されている。

主要輸入品目で目立つのはやはり原油。

原油が	11.3%
電気機械	10.0%
産業機械	10.0%
化学品	8.6%
集積回路	7.7%

2005年06年と原油の高騰がタイ経済に直撃した理由がこの依存度にある。

逆に輸入品目では

コンピューター	9.5%
自動車・部品	5.8%
集積回路	5.1%
ゴム	3.5%
テレビ・部品	3.3%

となり以外にも自動車の輸出よりも電機、IC関連がタイの輸出産業を牽引しているのが分かる。

- 4 : タイの労働事情では
タイの労働人口15歳以上は全人口の6523万人の55%で3625万人。

失業率は現在 2.5% で経済危機前まで回復している。

タイの平均月収レベルは 2002 年時で 6446 バーツ。(19000 円程度)
大学新卒になるともう少し上昇し最近では 13000 バーツほどにまで上がってきた。大学卒と高校卒ではかなりの職務遂行レベルに開きがあるために賃金格差も大きい。

管理人の目から見ると圧倒的に女性の社会進出度が日本に比べ高いのが感じられる。男性はタクシーの運転手、モーターバイクの運転手がかなりいる。女性の方が工場でも、オフィスでも活躍しているケースが多い。ただ管理職レベルになると何故か男性が増えてくるのがなぞであるが・・・。

タイで働くと女性の数が圧倒的に多く感じられます。
毎朝の通勤風景でも女性が乗っている割合が多く、その辺りが日本の大手町などと異なる風景だと思われれます。結婚後も妊娠後も働くケースが一般的で臨月ギリギリまで勤務して再び職場に戻るケースが多いです。
ベビーシッターを雇うケースが一般的でもあり、女性が働く環境が一般的に整っているとも言えます。

□□No2 タイ株上級者編です■

過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 002 SCC です。○○

SCC はサイアム・セメントと呼ばれており
ブランド名「エレファント」「タイガー」「エラワン」などのブランド名でセメント製造や調達をするタイのセメント生産シェア 40% のセメント製造で No1 の企業。サイアムセメントグループの旗艦会社でもあり古くから日本企業との提携もある。グループ内には建材を始め、鉄鋼、石油化学、パルプなどを形成するコングロマリット複合企業である。1913 年には国策会社として王室から誕生した会社だが 1975 年に上場し 2005 年からは「建築資材」のセクターへ移動している。

さてちょっと建築資材の部門へ飛んで
セメント業界 No1 の SCC (サイアム・セメント) です。こちらも大きな会社です。

1913 年に誕生した同社は
最大株主が王室財産管理局であることからタイ国内においてもかなりの力を持っています。
経営陣の TOP レベルでも王室出身者、貴族が多く、華僑や華人があまり関与しない純タイ資本財閥とみなされている面もあります。

同社はセメント、石化、製紙・パルプなど関連会社 100 社以上に出資していて、今回のメガ・プロジェクトでもかなり期待されていたはずなのですが・・・

しかし今後も建築資材の需要が見込まれており、そのシェアは圧倒的で将来的にも期待が出来る企業です。

2006年10月20日現在の株価は244バーツで終わりました。
6月くらいまでは210バーツ前後で推移していたので、この時点で底値と判断して購入された方は、かなり嬉しいのではないのでしょうか。
7月以降は右肩上がりとなっております。

SCCが発表した決算では、2005年の売上高では前年比13.4%増の2345億バーツであった。利益が前年比8.7%マイナスの307億バーツ。
景気減速による需要の減少と原油高における素材の高騰が大きく響いた模様。
建材の価格高騰、住宅建設、ビル建設の需要が予測より低くなり、06年度もビル建設資材の価格影響度合いが大きく関係してくる。
子会社関連におけるビジネスでも収益を下げた結果に終わった。
06年度はインフラの需要が見込めた『メガ・プロジェクト』が延期にあたることから大幅な需要増が見込めない模様。
ただし次期政権次第では早急にインフラ開発に取り組む可能性も残されている。

さらに詳しい情報は後ほど会員情報でUPDATEして行きます。
直接管理人にお問い合わせ下さい。

□□No3 タイ国内ニュース編です■

スワナプーム新空港へ行って参りました！
夜出発だったために10時ごろ出掛けて行ったのですがその青い電飾と大きさに圧倒されました。外から見て到着したと思ってもなかなか入り口までたどり着きません。周囲には何もないので新空港だけがやたらと目立ちます。
空港へ到着して見ると高い建物の中にガラスを多用したデザインとなっており天井が高いのですっきり広く感じられました。

しかし報道の通り、チェックイン時と荷物を預ける際に相当手際が悪く、待たされるのを覚悟しなければなりません。

入国審査も旧空港と同じく待たされることが多いのでやはり早めに行くのに越したことはないと感じました。

しかしタイ国際航空のサービスはやはりしっかりしていてエア・インディアなどと比べてきちんとトレーニングされていると感じました。

旧ドンムアン空港ではすでにキャパシティが限界であったためにいろいろトラブル続きでしたが今回の新空港誕生で、イライラやありえない事件が

発生しないようなタイの空港になって欲しいと思いました。

現地情報として

- 1：新空港到着後はバスなら1Fへ降りて50バーツ支払ってバンコク都内まで行くことができます。金額は250バーツ～400バーツです。
タクシーなら50バーツの手数料でバンコク市内へどこでも移動可能。
- 2：お出迎えの際は駐車場が込むために5FのCarParkよりも1FのAirport Hotel -Parking Lotsが便利でよい。
- 3：到着してもかなり移動時間が取られるために早めに出発ロビーへ移動しておくのがよい。

こんな感じでした。

□□No 4 追伸です■ ■

さてこの欄ではそもそもわたくしABEがタイに来るきっかけになったことからゆっくりにお話ししたいと思います。(関東戻る編 埼玉1号)

小学校3年時の夏休み。再び転校になることが決定しました。
埼玉県川口市。昔鎊物で有名だった街です。

荒川に近い場所に住んで、ときどき川沿いの土手で遊んでおりました。当時は広い空き地と草原でいっぱいだった場所も現在はかなりマンション開発が進んでおります。

わたくしは弟が一人いるのですが彼は福岡でせっかくできた友達と別れることになりわんわん泣いておりました。(今回2回目だったわたくしはけっこう慣れてしまってたのですがそれでも再び不安な気持ちでいっぱいでした。)

小学生時代の転校ってする側にとってみると一大イベントですよ、新しくそのコミュニティにいやおうなしに放り込まれるわけですから。しかも隣町ではなくはるか遠くへ。気軽に遊びに戻る事は不可能です。

さらには新天地で最初でつまずくと仲間はずれ、もしくははじめの対象になってしまうからです。このころはもう引っ込み事案な性格100%な子供でした。しかし転校を繰り返すと勉強についていけない自分があるので勉強は一生懸命やってみましたね。

幸いにも兄弟共に新学校で慣れていき、過ごせてたのですが、ちょっとしたことで

ある事件は起きました。

ある日、弟を連れて出掛けた時、
仲の良い同級生の友人に会ってそのまま彼の家へ行くことになったんですね、
でも弟がぐずるので何故かその時だけは
「もう家へ帰ってよ！」
と怒ってしまい、彼をおいてけぼりにして遊びに行ってしまったのです。

まだ5歳時だった彼にとってはショックだったのか
それ以来あまり兄であるわたくしと出掛けるのを控えるようになったんです。

もう弟は忘れていてもかもしれませんが
あのことをまだ覚えている自分がいるということは
もっと強く言ってしまったのかもしれないです。

このメルマガでは自分を振り返りながら書いているので
独白形式になってしまいますね。

(次は埼玉編 第2号へ続きます。)

最後までお読み頂き有難うございました。

ブログともども次号もぜひよろしく願いいたします。

●注意事項です

- 1：わたくしのメールマガジンは客観的情報の提供を目的としており、投資等の勧誘または推奨を目的としたものではないことをご了承ください。
- 2：タイの情報については細心の注意を払っておりますが、その内容に相違が発生する場合もあり、保証するものではありません。
- 3：タイの株式売買決定は自己責任でお願い致します。

□□□□□□□□□□□□■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
メールマガジン 『日本人の98%は知らないタイ株投資!』

発行責任者： TOSHIYUKI ABE
※公式サイトはこちら → <http://toatoajugem.jp/>
Copyright (c) 2003-2006 Toshiyuki Abe. All rights reserved.

□□□□□□□□□□□□■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 Svcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.